

政策 04 都市基盤に関する政策

施策 01 調和と魅力ある土地利用の推進

あるべき姿

都市と緑が調和した秩序ある土地利用がされています。

施策の成果状況と評価

指標	周辺環境と調和した土地利用がされていると思う市民の割合（％）	基準値 (H27)	実績値 (R01)	実績値 (R02)	目標値 (R03)	対 基準値
		【都市計画課】	53.3	57.6	58.7	56.0
評価	(状況) 調和のとれた土地利用がされている(されている部分が多い)と感じる市民の割合は、基準値(53.3%)と比較して、5.4ポイント向上し、前年度と比較しても1.1ポイント向上しました。					対 前年度
	(要因) 土地区画整理事業の進捗や生活道路の整備、公園整備などによる生活環境に密接に関係する事業の効果が挙げられます。今後は事業と市民アンケートの関係を整理し、事業の効果を分析する必要があります。					目 標 達成度

基本事業の成果状況と評価

基本事業01 適正な土地利用の促進

指標	市街化区域内の未利用地割合（％）	基準値 (H27)	実績値 (R01)	実績値 (R02)	目標値 (R03)	対 基準値
		【都市計画課】	4.75	5.55	5.55	4.15
評価	<p>（状況）5年に1度の都市計画基礎調査を実施したH28実績値から推計で0.02ポイント向上しましたが、基準値（4.75％）から0.8ポイント悪化しています。</p> <p>（要因）5年に1度の都市計画基礎調査の結果であることから、現時点での実績把握ができていません。引き続き、市街化区域の有効利用が図られるよう選択と集中による都市基盤整備を進めます。</p>					対 前年度 ☁ (横ばい)

基本事業02 住みやすい・住み続けたい住環境づくり

指標	地区計画・建築協定締結箇所数（累計）（地区）	基準値 (H27)	実績値 (R01)	実績値 (R02)	目標値 (R03)	対 基準値
		【都市計画課】	14	14	14	15
評価	<p>（状況）地区計画数・建築協定数は基準値（14）から変わりありません。</p> <p>（要因）それぞれの区域の特性にふさわしい態様を備えた良好な住宅環境と街区整備を図り、必要に応じて地区計画策定を進めていきます。</p>					対 前年度 ☁ (横ばい)

基本事業02 住みやすい・住み続けたい住環境づくり

指標	住宅購入・借り換えを目的に、他市へ転出した割合（％）	基準値 (H27)	実績値 (R01)	実績値 (R02)	目標値 (R03)	対 基準値
		【総合政策課】	8.3	10.8	13.3	7.0
評価	<p>（状況）住宅購入・借り換えを目的に、他市へ転出した割合は、基準値(8.3％)と比較して、5.0ポイント増加しました。</p> <p>（要因）区画整理事業での住宅供給が一段落し住宅地供給が停滞していることが挙げられます。今後の整備進捗により住宅購入・借り換えの割合が下がるものと考えられます。</p>					対 前年度 ☔ (低下)